

「可視化」の普及啓発

～「可視化」を県内自治体に活用してもらうには～

新潟県
都市政策課 広域都市政策班

i-都市交流会議2020

1

1.立地適正化計画情報交換会（R1.8.6）

立地適正化計画の担当者が集まる会議において、県内自治体担当者に都市構造可視化を紹介した。



i-都市交流会議2020

2

1.立地適正化計画情報交換会（R1.8.6）

立地適正化計画の担当者が集まる会議において、県内自治体担当者に都市構造可視化を紹介した。

<会議参加者からの意見>

- 都市構造可視化は知っていたが、活用方法について学ぶことができて大変参考になった。
- 都市構造可視化を活用するものだと感じた。
- 思ったより操作が簡単なので、今後活用して

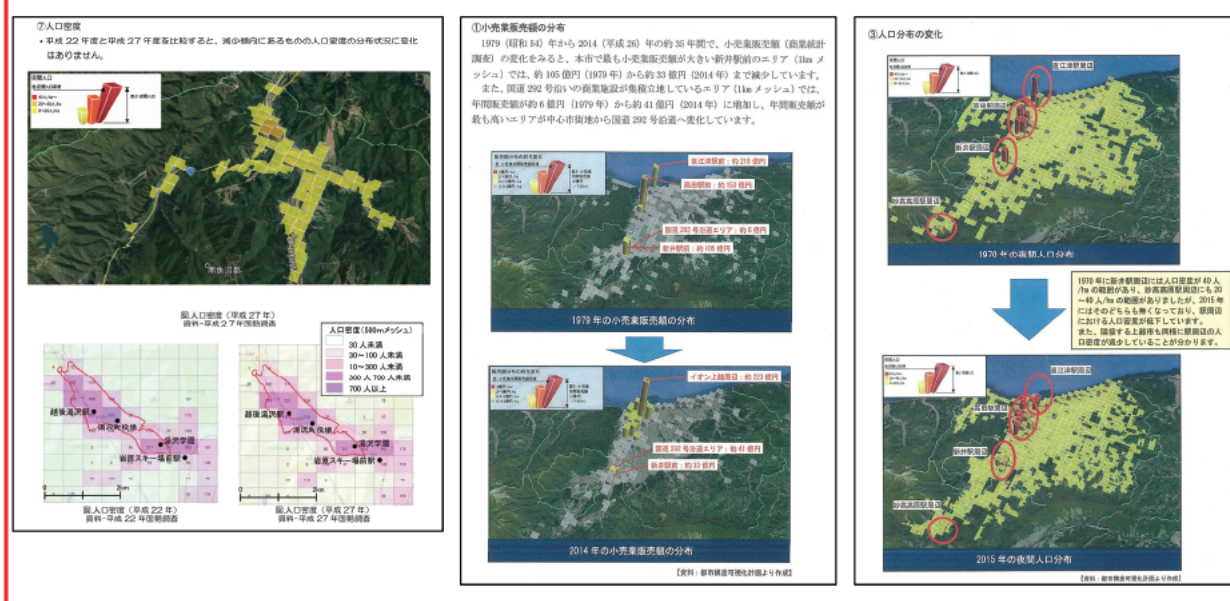


i-都市交流会議2020

3

1.立地適正化計画情報交換会（R1.8.6）

立地適正化計画を作成中の県内自治体が、計画の現状分析の中で「都市構造可視化」を活用

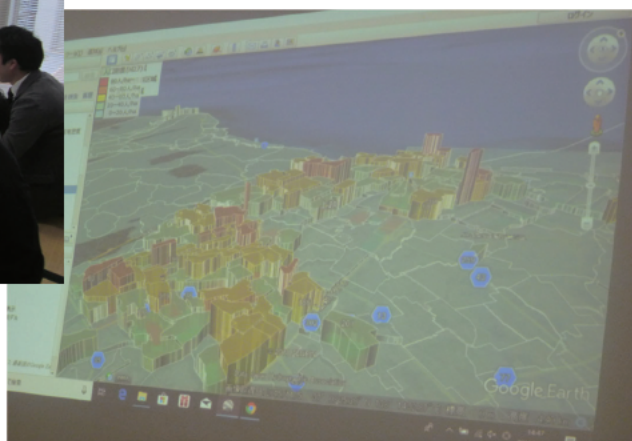


i-都市交流会議2020

4

2.新潟県都市構造可視化勉強会（R1.11.20）

令和元年度、都市構造可視化研修に参加している県内自治体が集まり、都市構造可視化の活用方法などについて意見交換を行った。



i-都市交流会議2020

2.新潟県都市構造可視化勉強会（R1.11.20）

＜勉強会の中で出た意見＞

- 地方都市は統計データ（人口や地価など）をグラフ表示しても高さが低すぎて違いがよくわからない。
- データの情報量が多いと動かなくなるのが難点。
- 多様なデータが入っていないと様々な場面の検討に使えない。
- 自治体によって抱えている課題は様々で、場面に応じて必要なデータを可視化サイトに入れ込みたいが、データを簡単に入れることができないことが高いハードルになっている。自治体独自に簡単にデータを入れることができれば、可視化サイトのハードルがぐっと低くなるのではないか。
- 都市部局で活用する際には、統計系データよりもハザードエリアや開発許可データ、施設位置など平面系データを入れ込んだほうが活用できるのではないか。

i-都市交流会議2020

3.まとめ

- 県内自治体に可視化の紹介を行って感じたことは、可視化の認知度は自治体によってかなり温度差があるため、今後も継続した普及啓発の取組が必要。
- 可視化サイトを認知していても、具体的な活用方法がわからなかったり、活用方法をイメージできていても、必要なデータをどのように入れ込むか不明であるため、サイトの活用につながっていないように感じた。
- 今後も県主催の会議の場を利用しながら可視化の普及に努めるとともに、県内自治体に可視化サイトを活用してもらうにはどうしたらいいか検討していきたい。

～住んでよし、訪れてよしの新潟県～

